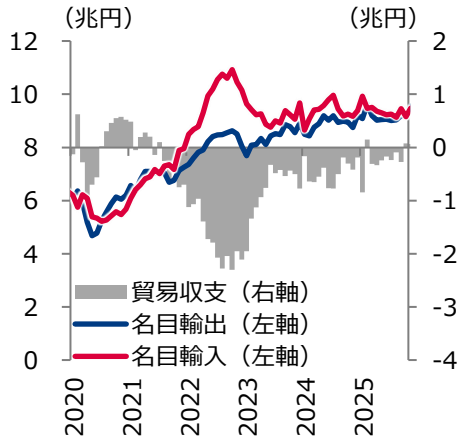
日本

貿易統計（2025年11月）

米国向け自動車輸出は持ち直しも、先行きは伸び悩む見込み

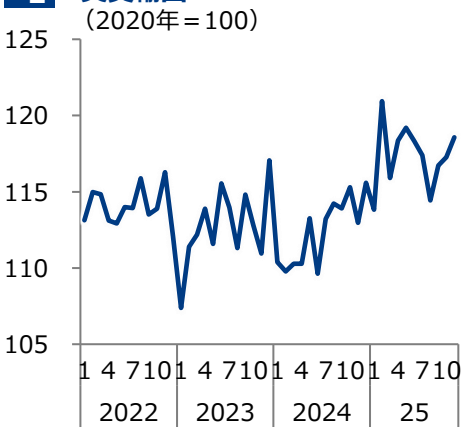
政策・経済センター
山本道也・田中嵩大
03-6858-2717

1 名目輸出入・貿易収支



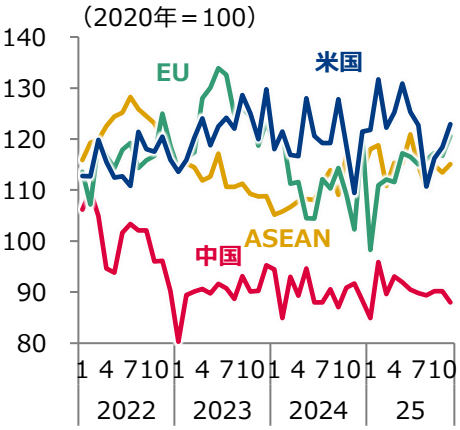
注：季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」を基に三菱総合研究所作成

2 実質輸出



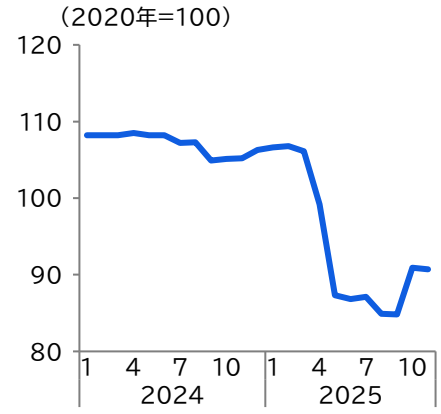
注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

3 地域別実質輸出



注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

4 北米向け乗用車輸出物価（契約通貨ベース）



出所：日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25年11月の貿易収支（季調値）は+629億円と、2カ月連続の貿易黒字となった（図表1）。名目輸出（前月比+3.4%）、名目輸入（同+3.5%）はともに前月から増加した。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出（当社試算、季調値）は、前月比+1.1%と3カ月連続で増加した（図表2）。
- 地域別にみると、米国向け（前月比+3.8%）は増加した。医薬品輸出の急増という一時的要因に押し上げられている側面はあるものの、夏場に落ち込んでいた輸送用機器が持ち直した（図表3）。
- そのほか、EU向け（同+3.3%）やASEAN向け（同+1.5%）は増加した一方、中国向け（同▲2.5%）が減少した。

基調判断と今後の流れ

- 貿易収支はおおむね均衡している。先行きは、輸出が伸び悩むことから、ゼロ近傍での推移を予想する。
- 実質輸出は7-9月期対比で持ち直している。対米自動車輸出関税の引き下げや米国経済の好調を背景に、米国向け輸出に持ち直しの動きがみられる。
- 先行きの実質輸出は横ばい圏での推移を見込む。関税コストの多くを米国の企業が負担しているとみられ、消費者への価格転嫁進展に伴い、米国の需要が抑制されるだろう。輸出企業のコスト負担についても、北米向け乗用車の輸出価格は10月から横ばいにとどまり（図表4）、価格転嫁の余地は大きい。
- 輸出の下振れリスクもある。例えば、AI関連を中心に株価の割高感は強く、株価の大幅な調整など金融市場の変動が大きくなれば、世界各国での消費抑制・投資慎重化を通じて、輸出が下押しされる可能性がある。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.